

茨城県で注目されるサイクリングやキャンプ

新型コロナウイルス感染拡大でサイクリングやキャンプなど屋外でのレジャーが注目され、人気を集めるようになった。コロナ前から徐々に関心が高まっていたが、行動制限の中で一気に人気に火がついた格好だ。茨城県ではこれまで盛り上がりはいまひとつ。だが地域活性化につなげようと自治体が本腰を入れ始めた結果、ブームが急速に広がった。

県内にはもともと筑波山周辺の鉄道跡を利用した自転車道があったが、県が日本で2番目に広い湖、霞ヶ浦湖岸を周遊するルートとつなげて「つくば霞ヶ浦りんりんロード」と命名。高低差が小さく専用道区間が長いいため、初心者でも楽しめるのが特徴だ。2019年には国の「ナショナルサイクルルート」に指定されたこともあり、知名度が格段に上がった。昨年からの人出は異常ともいえるほどだった。サイクリングはコロナ前から人気になっており、若者はもちろん、シニア層が新たな趣味として始めるケースも目立った。キャンプもアウトドアブームが手伝って人気も高まっていた。特に芸人が動画などでソロキャンプの楽しさを広めたこともあり、県内でもなかなか予約が取れないキャンプ場も出ている。

筆者も2000年以降、サイクリングにはまり、霞ヶ浦一周はもちろん、2泊3日で東北地方や東海地方に自転車旅に出掛けていた。時にはキャンプ道具一式を積んでキャンプ場で宿泊するキャンプツーリングも楽しんだ。当時は霞ヶ浦湖岸も砂利道が多く、難儀したのを覚えている。10年以上前に夏休みを取り、茨城県からツーリングで羽田空港へ行き、空路で北海道に渡り、1週間キャンプツーリングをしたのは現在ではできない良い思い出となっている。茨城県土浦市には星野リゾートが自転車をテーマにしたホテルを開業するなど新たな動きも。今の時代に合ったサイクリングやキャンプなど新たなビジネスチャンス到来といったところだろう。

茨城新聞社 編集局報道部担当部長 大高茂樹



つくば霞ヶ浦りんりんロード沿いにある旧駅の風景＝茨城県桜川市



サイクリスト向けに昨年オープンした星野リゾートのホテル＝茨城県土浦市